

尾鷲市学校施設保全計画

令和 3 年 3 月策定

尾鷲市教育委員会

目 次

1	学校施設の保全計画の背景・目的等	1
	①背景と目的	1
	②計画期間	1
	③対象施設	1
2	学校施設の目指すべき姿	2
3	学校施設の実態	3
	①対象施設一覧	3
	②児童生徒数の推移	4
	③学校施設の配置状況	5
	④施設関連経費の推移	6
	⑤学校施設の保有量	7
	⑥学校施設の劣化状況の評価	8
	⑦劣化状況調査の手法	9
	⑧劣化状況調査票を用いた調査結果	10
	⑨従来型と長寿命化型による維持・更新コストの比較	11
	⑩学校施設の実態を踏まえた課題	12
4	学校施設整備の基本的な方針等	13
	①予防保全型の維持管理	13
5	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	14
	①整備水準	14
6	施設の保全に向けた考え方	16
	①改修等の優先順位について	16
	②保全計画の効果と今後の見通し	17
7	学校施設保全計画の継続的運用方針	18
	①情報基盤の整備と活用	18
	②推進体制等の整備	18
	③フォローアップ	18

1 学校施設の保全計画の背景・目的等

① 背景と目的

本市の学校施設は現在、小学校 5 校、中学校 2 校の 7 校を維持管理しています。このうちおよそ 7 割の建物は建築後 30 年以上が経過しており、全体的に老朽化・機能低下が進行している状況にあります。

これらの学校施設の改修等や建て替えには多額の費用が必要になると考えられ、また、今後児童生徒数の減少が見込まれることから、学校施設の適切な維持管理が課題となっています。

このことは、本市に限らず全国共通の課題となっており、国においては平成 27 年 4 月に「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」を公表し、単なる更新のための改修・改築ではなく、施設を長い期間、有効利用できる長寿命化改修と計画的な維持管理に向けた中長期計画の策定・実施の考え方が示されています。

このような状況を踏まえ、本計画は、令和 2 年 3 月に策定された「尾鷲市公共施設等総合管理計画」に基づき、本市の小中学校の施設の実態を把握し分析することで、各建物の劣化度を数値化し、教育環境の質的改善も考慮しながら、本市の実情に即した学校施設の整備の基本的な方針等について定め、それが効率的かつ効果的に実施されることを目的とします。

② 計画期間

本計画は、「尾鷲市公共施設等総合管理計画」（令和元年度～令和 30 年度（2048 年度））、の第 1 期の見直し年度となる「尾鷲市公共施設個別計画（第 1 期）」（案）（令和 3 年度～令和 10 年度（2028 年度））と同様の令和 10 年度（2028 年度）までの 8 年間とします。

ただし、計画期間内においても必要に応じて、見直すものとします。

③ 対象施設

学校	
小学校	5 校
中学校	2 校

※現在、児童生徒が在籍する学校を対象とします。

※尾鷲幼稚園については、尾鷲小学校併設の為、尾鷲小学校に包括しています。

※これらの施設が保有する建築物のうち、小規模建築物（概ね 200 ㎡以下）を除いた施設を対象とします。（本計画は、校舎、体育館及びプールを対象とする。）

2 学校施設の目指すべき姿

文部科学省の諮問会議等において示された「安全性」、「快適性」、「環境への適応性」、「地域の拠点化」等の観点も踏まえ、次のとおりとします。

学校施設の目指すべき姿
1. 安全性 ○災害対策 ・地震に強い学校施設 ・津波・洪水に強い学校施設 ・防災機能を備えた学校施設 ○防犯対策 ・安全で安心な学校施設 2. 快適性 ○快適な学習環境 ・学習能率の向上に資する快適な学習環境 ・バリアフリーに配慮した環境 ・保護者等が訪れやすい空間 3. 環境への適応性 ○環境を考慮した学校施設 4. 地域の拠点化 ○地域と連携する学校 ・安全で安心な学校施設 ・バリアフリーに配慮した環境 ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設

※参考資料:「学校施設整備基本構想の在り方について」(学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議平成 25 年 3 月)

3 学校施設の実態

① 対象施設一覧

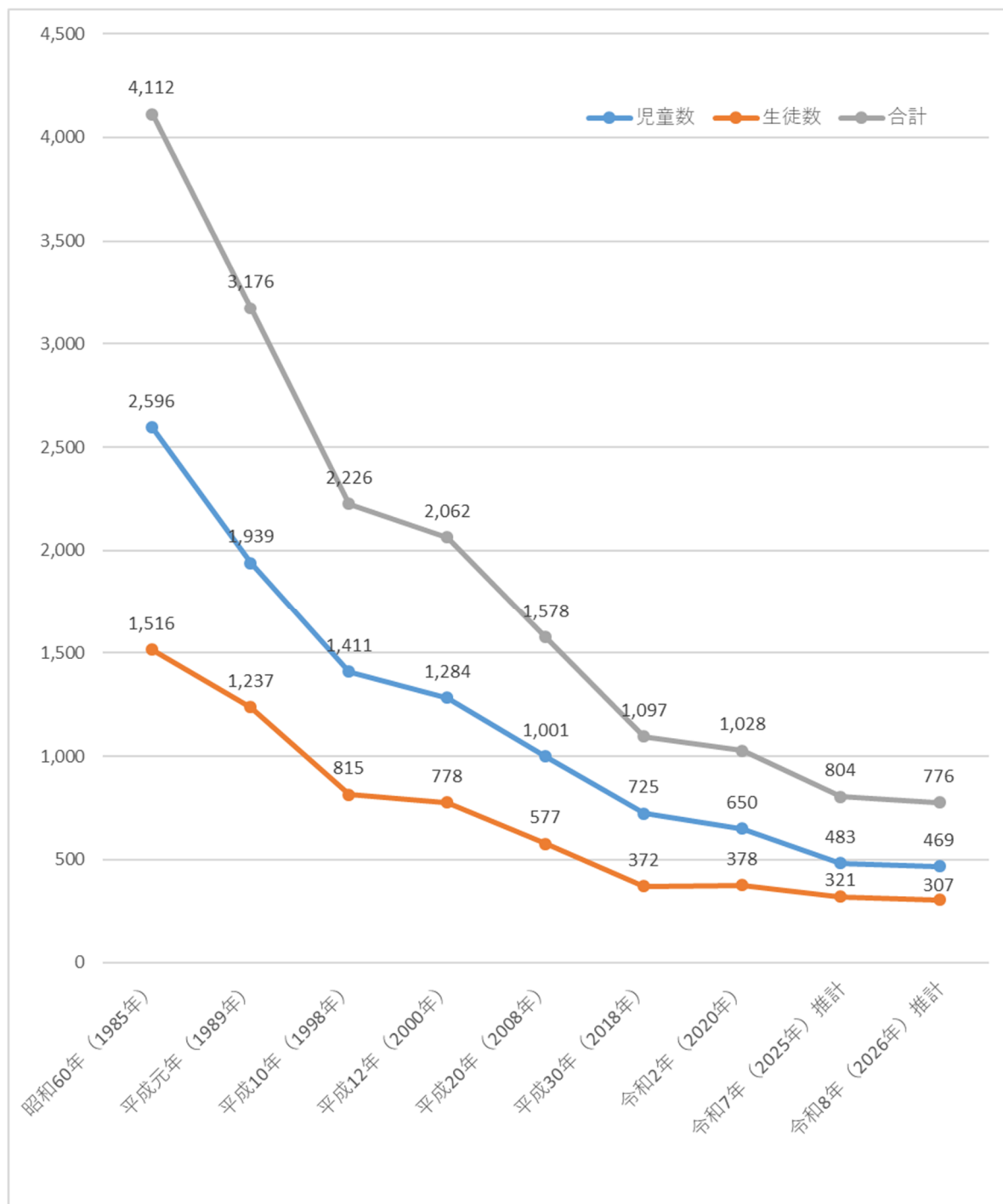
令和2年5月1日現在

学校名	所在地	区分		構造	床面積 (㎡)	建築年	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
							通常 学級	特別 支援	通常 学級	特別 支援
尾鷲小学校	尾鷲市中村町4-58	校舎	東棟	R C	2,187	S50	410	20	13	4
		校舎	西棟	R C	1,309	S51				
		校舎	北棟	S	1,845	H24				
		体育館	－	木造	1,100	H11				
		プール	－	コンクリート	348	S38				
宮之上小学校	尾鷲市宮ノ上町6-48	校舎	－	R C	2,038	H26	91	7	6	2
		体育館	－	S	485	H26				
		プール	－	コンクリート	300	S52				
矢浜小学校	尾鷲市矢浜2丁目3-52	校舎	－	R C	2,515	S61	45	4	5	1
		体育館	－	S	602	S56				
		プール	－	ステンレス	372	H14				
向井小学校	尾鷲市大字向井134-12	校舎	－	R C	2,016	S55	23	2	3	1
		体育館	－	S	496	S55				
		プール	－	アルミニウム	240	S59				
賀田小学校	尾鷲市賀田町319	校舎	－	R C	1,926	S47	47	1	6	1
		体育館	－	R C	374	S47				
		プール	－	ステンレス	257	H11				
小学校計							616	34	33	9
尾鷲中学校	尾鷲市矢浜2丁目16-7	校舎	管理特別教室棟	R C	2,248	S42	356	4	12	1
		校舎	普通教室棟	R C	2,278	H1				
		校舎	特別教室棟	S	1,132	H1				
		体育館	－	R C	1,312	S44				
		武道場	－	木造	512	H24				
		プール	－	コンクリート	500	S46				
輪内中学校	尾鷲市賀田町572	校舎	－	R C	1,553	H25	16	2	3	1
		体育館	－	R C	677	S40				
		プール	－	コンクリート	435	S48				
中学校計							372	6	15	2

- ※1 校舎の建築年は、最も古い校舎の建築年を表示
 ※2 延床面積は公立学校施設台帳を参照
 ※3 校舎、体育館及びプールを対象（物置等は除く）

② 児童生徒数の推移

本市の児童生徒数は減少傾向にあり、現在の児童数は昭和 60 年の 2,596 人から 650 人、生徒数は 1,516 人から 378 人と昭和 60 年の 4 分の 1 にまで減少しており、令和 8 年度（2026 年度）には児童数は 469 人、生徒数 307 人まで減少していくものと予想されます。



③ 学校施設の配置状況

本市には現在、小学校が5校、中学校2校が以下のとおり配置されています。



④ 施設関連経費の推移

< 近年 5 年間の施設関連経費の推移 >

平成 27 年度から令和元年度の施設関連経費は、小中学校の普通教室への空調設置工事があった令和元年度が最大で 173,423 千円、平成 28 年度が最小で 49,670 千円、5 年間の平均は 81,699 千円となっています。

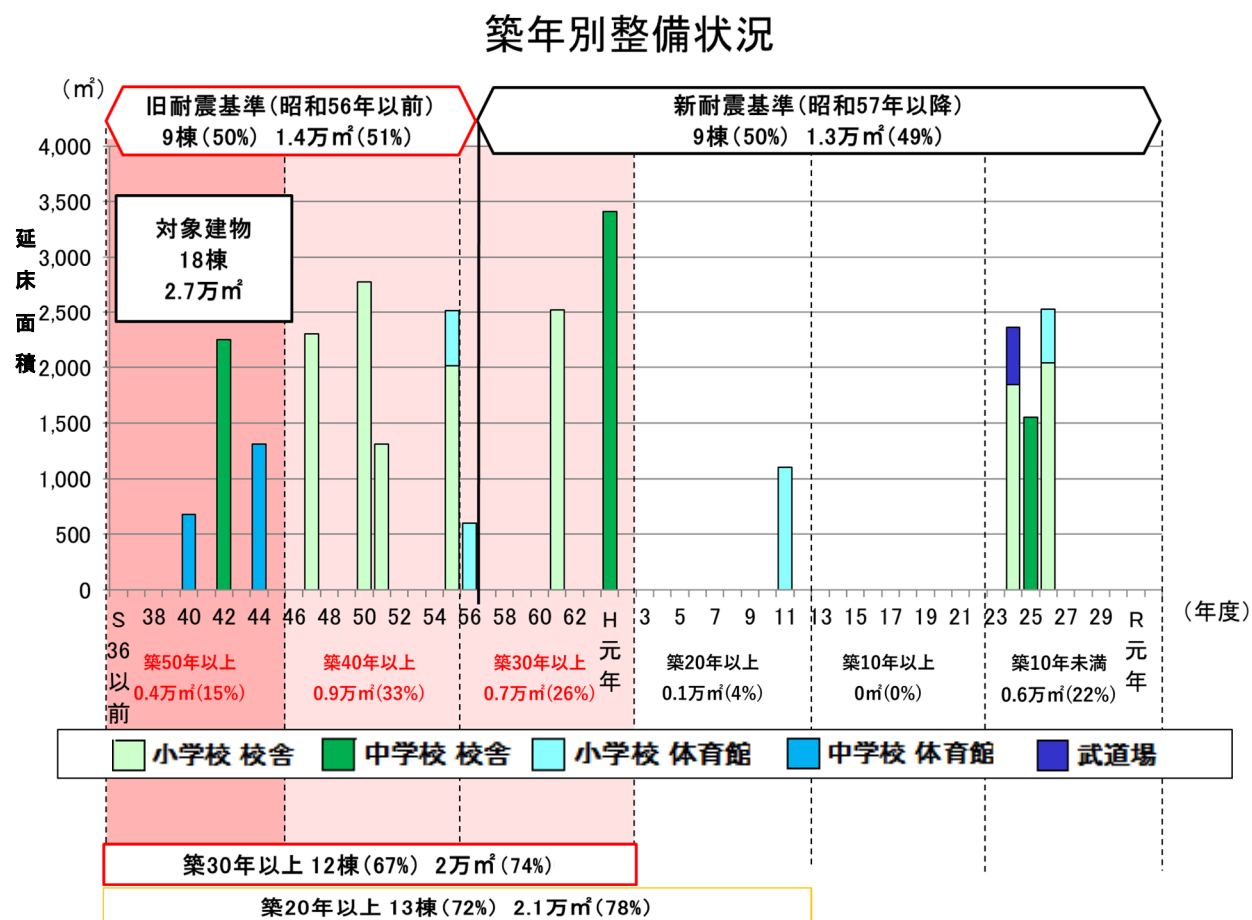
(千円)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	5 年平均
施設整備費	4,881	1,328	3,391	4,503	110,343	24,889
その他施設整備費	1,868	0	17,604	14,333	16,572	10,075
維持修繕費	5,620	7,602	4,682	5,634	5,948	5,897
光熱水費・委託費等	41,041	40,740	40,465	41,381	40,560	40,837
施設関連経費 合計	53,410	49,670	66,142	65,851	173,423	81,699

⑤ 学校施設の保有量

本市が設置する学校施設のうち、旧耐震基準による昭和56年以前の建物が全体（2.7万㎡）の51%（1.4万㎡）を占めていますが、すべての施設が耐震改修等により耐震基準を満たしています。

また、一般的に建物の大規模改修を行う目安とされる築30年以上経過した建物は、全体の74%を占めています。



※建物情報とするためプールを除いています。

⑥ 学校施設の劣化状況の評価

本市が設置する学校施設7校について、学校施設の劣化状況の実態を把握するため劣化状況調査を実施します。施設の劣化状況について把握する際は、劣化状況調査票を用いて、目視による評価と経過年数を基本とした評価をA～Dの4段階で行いました。

評価基準

○目視による評価
【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合の発生の兆し）
劣化 D	早急に対応する必要がある。 （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し、施設運営に支障を与えている）等

○経過年による評価
【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年未満
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

※経過年については、大規模な改修工事の実施年度を基準とします。

健全度の算定

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

③健全度

総和（部位の評価点×部位のコスト配分）÷60

※100満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

（健全度計算例）

	評価		評価点		配分	
1 屋根・屋上	C	→	40	×	5.1	= 204
2 外壁	D	→	10	×	17.2	= 172
3 内部仕上げ	B	→	75	×	22.4	= 1,680
4 電気設備	A	→	100	×	8.0	= 800
5 機械設備	C	→	40	×	7.3	= 292
						計 3,148
						÷ 60
						健全度 52

（出典：学校施設長寿命化計画策定に係る解説書（2017年3月文部科学省））

⑦ 劣化状況調査の手法

学校施設の劣化状況を把握するために、下記の劣化状況調査票を用い、建築物の部位に対し、A～Dの4段階で劣化状況調査を実施しました。

劣化状況調査票

通し番号			
学校名		学校番号	
建物名			調査日
棟番号			記入者
構造種別		建築年度	平成 年度(年度)
	延床面積	m ²	階数
		地上	階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	☐ アスファルト保護防水			☐ 降雨時に雨漏りがある			
	☐ アスファルト露出防水			☐ 天井等に雨漏り痕がある			
	☐ シート防水、塗膜防水			☐ 防水層に膨れ・破れ等がある			
	☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板)			☐ 屋根葺材に錆・損傷がある			
	☐ 勾配屋根(スレート、瓦類)			☐ 笠木・立上り等に損傷がある			
	☐ その他の屋根 ()			☐ 樋やルーフィングを目視点検できない			
				☐ 既存点検等で指摘がある			
2 外壁	☐ 塗仕上げ			☐ 鉄筋が見えているところがある			
	☐ タイル張り、石張り			☐ 外壁から漏水がある			
	☐ 金属系パネル			☐ 塗装の剥がれ			
	☐ コンクリート系パネル(ALC等)			☐ タイルや石が剥がれている			
	☐ その他の外壁 ()			☐ 大きな亀裂がある			
	☐ アルミ製サッシ			☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	☐ 鋼製サッシ			☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	☐ 断熱サッシ、省エネガラス			☐ 外部手すり等の錆・腐朽			
				☐ 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	☐ 老朽改修			
	☐ エコ改修			
	☐ トイレ改修			
	☐ 法令適合			
	☐ 校内LAN			
	☐ 空調設置			
	☐ 障害児等対策			
	☐ 防犯対策			
	☐ 構造体の耐震対策			
	☐ 非構造部材の耐震対策			
	☐ その他、内部改修工事			
4 電気設備	☐ 分電盤改修			
	☐ 配線等の敷設工事			
	☐ 昇降設備保守点検			
	☐ その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	☐ 給水配管改修			
	☐ 排水配管改修			
	☐ 消防設備の点検			
	☐ その他、機械設備改修工事			

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)

	健全度
	0 / 100点

⑧ 劣化状況調査票を用いた調査結果

調査結果につきましては、小学校では健全度が75～100点のところは7棟、50から74点が4棟、0～49点は無しといった結果となっています。

中学校では、健全度が75～100点のところは2棟、50から74点が4棟、0～49点は1棟といった結果となっています。

建物情報一覧表

■:築50年以上 ■:築30年以上 基準 2020

建物基本情報											構造躯体の健全性			劣化状況評価						備考
通し 番号	施設名	建物名	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)	
			学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強							
1	尾鷲小学校	校舎	小学校	校舎	R	3	2,780	1975	S50	45	旧	済	済	A	A	A	A	A	100	東棟
2	尾鷲小学校	校舎	小学校	校舎	R	3	1,309	1976	S51	44	旧	済	済	B	A	A	A	A	98	西棟
3	尾鷲小学校	体育館	小学校	体育館	W	2	1,100	1999	H11	21	新	-	-	B	B	B	B	B	75	屋内運動場
4	尾鷲小学校	校舎	小学校	校舎	S	2	1,845	2012	H24	8	新	-	-	A	A	A	A	A	100	北棟
5	宮之上小学校	校舎	小学校	校舎	S	2	2,038	2014	H26	6	新	-	-	A	A	A	A	A	100	校舎
6	宮之上小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	485	2014	H26	6	新	-	-	A	A	A	A	A	100	屋内運動場
7	矢浜小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	602	1981	S56	39	旧	済	-	C	B	B	B	B	72	屋内運動場
8	矢浜小学校	校舎	小学校	校舎	R	3	2,515	1986	S61	34	新	-	-	B	B	B	B	B	75	校舎
9	向井小学校	校舎	小学校	校舎	R	1	2,014	1980	S55	40	旧	済	済	B	C	B	C	C	56	管理教室棟
10	向井小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	496	1980	S55	40	旧	済	-	C	B	C	C	C	50	屋内運動場
11	賀田小学校	校舎	小学校	校舎	R	3	2,300	1972	S47	48	旧	済	-	B	B	B	C	B	70	教室棟
12	尾鷲中学校	校舎	中学校	校舎	R	3	2,248	1967	S42	53	旧	済	済	B	B	C	C	C	53	管理特別教室棟
13	尾鷲中学校	体育館	中学校	体育館	R	2	1,312	1969	S44	51	旧	済	-	C	C	D	C	C	29	屋内運動場
14	尾鷲中学校	校舎	中学校	校舎	R	3	2,278	1989	H元	31	新	-	-	C	C	B	B	C	58	普通教室棟
15	尾鷲中学校	校舎	中学校	校舎	S	2	1,132	1989	H元	31	新	-	-	B	C	B	B	C	61	特別教室棟
16	尾鷲中学校	武道場	中学校	体育館	W	1	512	2012	H24	8	新	-	-	A	A	A	A	A	100	武道場
17	輪内中学校	体育館	中学校	体育館	R	1	677	1965	S40	55	旧	済	-	C	B	B	C	C	63	屋内運動場
18	輪内中学校	校舎	中学校	校舎	R	2	1,553	2013	H25	7	新	-	-	A	A	A	A	A	100	校舎

プール情報一覧表

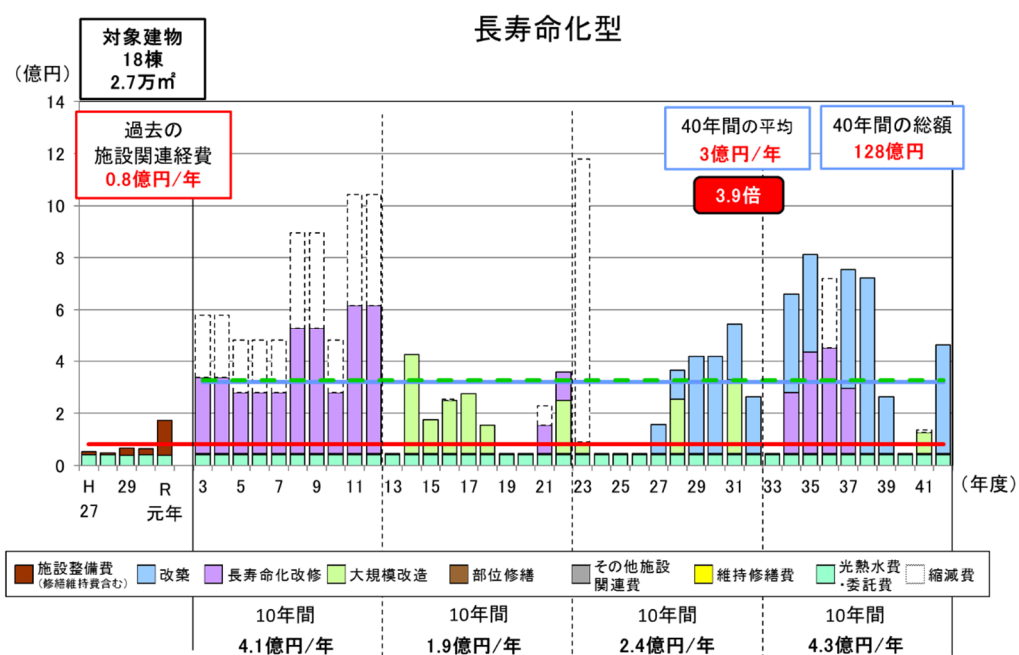
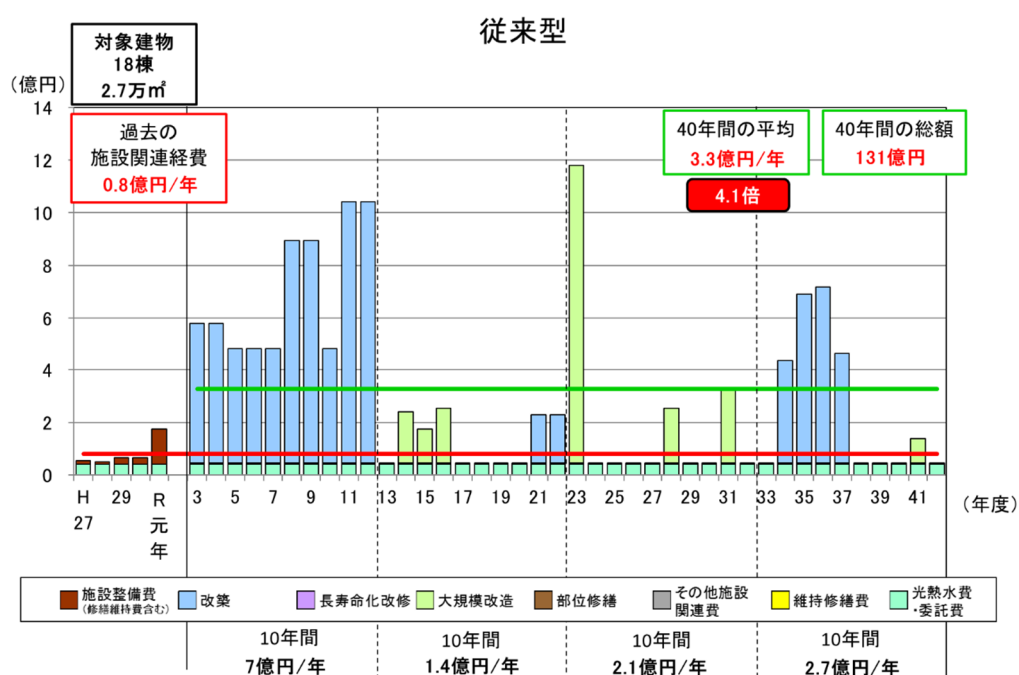
プール基本情報								劣化状況評価		
施設名	用途区分		構造	延床面積(m ²)	建築年度		築年数	プール塗装	プールサイド	ろ過器
	学校種別	用途			西暦	和暦				
尾鷲小学校	小学校	プール	コンクリート	348	1963	S38	56	C	B	C
宮之上小学校	小学校	プール	コンクリート	300	1977	S52	42	A	C	C
矢浜小学校	小学校	プール	ステンレス	372	2002	H14	17	B	B	B
向井小学校	小学校	プール	アルミニウム	240	1984	S59	35	B	B	B
賀田小学校	小学校	プール	ステンレス	257	1999	H11	20	B	B	B
尾鷲中学校	中学校	プール	コンクリート	500	1971	S46	48	C	B	B
輪内中学校	中学校	プール	コンクリート	435	1973	S48	46	B	C	B

※国が要求する計画の策定基準においては、建築物を対象としているため、評価の方法については、解説書の評価方法を参考にし、目視及び経過年による評価を実施しました。

⑨ 従来型と長寿命化型による維持・更新コストの比較

学校施設に係る今後の維持・更新コストを文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属ソフト」を用いて試算すると、以下のとおりとなります。

建て替え中心の従来型から長寿命化型に変更していくことで、従来型コストは40年間の施設関連経費総額が約131億円に対し、長寿命化型が約128億円となり長寿命化型が従来型より約3億円、約2.3%の削減が見込まれる結果となりましたが、過去の施設関連経費が約0.8億円であるので、長寿命化の実施だけでは、財政面の対応が困難な状況です。



※国が要求する計画の策定基準においては、建築物を対象としているため、プールを除いた試算となっています。

⑩ 学校施設の実態を踏まえた課題

課題 1 計画的な施設整備

劣化状況調査の結果のとおり、学校施設において劣化が進行しているにも関わらず、予算の関係で改修等が先送りされている現状が見受けられます。

このような状況に対して、今後、計画的に整備を行わないと、劣化している部位の影響により、施設や設備に大規模な不具合が発生し、学校施設としての維持が困難となり、施設や設備本来の耐用年数まで使用できなくなるおそれがあります。

課題 2 施設環境の質的向上

建築年が古い各学校の建物内部については、大規模な改修等を実施していないため、多くは建設された当時の状態となっており、現在の教育環境や生活様式の変化に対応できていないといった課題があります。

児童生徒が快適に過ごすことができるよう、快適な学習環境づくりや安心・安全な空間づくりが求められています。

課題 3 施設の維持管理費の縮減

今後においても、厳しい財政状況が予測される中、施設の老朽化が進行するに当たって維持管理費はますます増加することが想定されるため、維持管理費を縮減していく必要があります。

課題 4 学校施設の規模等

原則として現在の学校数を維持していくこととしますが、小中学校を合わせた児童生徒数は著しく減少しており、今後の児童生徒の推移を考慮し、学校施設の規模等の最適化を検討していく必要があります。

4 学校施設整備の基本的な方針等

① 予防保全型の維持管理

予防保全型の基本的な考え方

施設等に不具合が発生した後に改修等を行う事後保全型から、不具合が発生する前に対応し、機能・性能の維持・回復を図る予防保全型への移行を進めることにより、建物の耐久性を一定水準確保するとともに、建物性能の向上と長寿命化を図り、予算の縮減に繋がります。

そのために、施設の状況や過去の改修履歴、学校からの改修要望等や不具合状況等をデータベース化し、データに基づいた予防保全を行い、建物の目標耐用年数までの長寿命化に取り組むこととします。

本計画は、上記を踏まえ、改修等を実施する際には、建物の劣化状況調査等による優先順位に基づき、市の財政状況を踏まえながら、教育環境の質的向上と社会的ニーズへの対応を図ります。

※参考

目標耐用年数

「尾鷲市公共施設個別計画（第1期）」（案）では、目標耐用年数を木造施設が50年、非木造施設（RC造・S造）が80年とし、計画しています。本計画においても同様とします。

構造	目標耐用年数
木造施設	50年
非木造施設（RC造・S造）	80年

5 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

① 整備水準

耐久性の向上

安全性を確保するため、構造躯体等の耐久性の向上を図ります。

鉄筋コンクリート造の建物は、コンクリートの中性化対策、鉄筋の腐食対策、鉄筋のかぶり厚さを確保する工事を状態に合わせて実施します。また、鉄骨造の場合は、鉄骨の腐食対策、接合部の破損の補修工事を状態に合わせて実施します。

屋根や外壁等は、劣化に強い塗装や防水材等、耐久性に優れた材料を使用します。また、非構造部材は、災害時の窓・ガラス、照明器具等の飛散・落下防止対策等の耐震化の必要性について検討します。

機能性等の向上

誰もが快適に施設を利用できるよう、ユニバーサルデザインやバリアフリー化を取り入れ、段差の解消やバリアフリースイールの設置等について検討します。

ICT 環境については、最新の技術についても常に情報収集をしながら、より効果的なネットワーク環境について検討します。

環境への配慮として、照明器具の LED 化など高効率な機器への更新や、内外壁・建具等の断熱性能の向上などにより、環境負荷を低減しつつ、快適性の確保とランニングコストの抑制について検討します。

整備水準に対する考え方を踏まえた具体的な改修工事等における整備項目を例示します。

<改修工事等における整備項目例>

安全性・耐用性を確保・維持するための改修 (老朽化への適切な対応)
① 屋上防水および屋根改修（メンテナンス性の向上や高耐久な建材の使用、断熱化） ② 外壁・外部建具改修（コンクリート中性化対策、断熱化、周辺環境に合わせた塗装） ③ 内装改修（木質化、防火性能向上、明るい色調、防音壁・天井） ④ 電気設備改修（省エネルギー機器に更新、発電施設、蓄電施設） ⑤ 機械設備改修（省エネルギー機器に更新、水道・ガスの外配管） ⑥ 外構改修（外周フェンスや運動場フェンスの更新、雨水排水対策） ⑦ 防犯対策（緊急通信設備の整備） ⑧ バリアフリー改修（バリアフリースイレ、段差解消、EV 設置） ⑨ 防災機能の強化（災害時に使用できる給水設備、発電施設、蓄電施設、備蓄庫整備） ⑩ 非構造部材の耐震化（日常使用する器具・家具類などの固定）
機能性・快適性を確保・維持するための改修 (快適性・環境への適応・学習効率の向上)
① 空調設備の整備 ② トイレ改修（洋式化・乾式床、節水型便器） ③ 内装改修（教室の木質化、現代に合わせたロッカー類の更新） ④ エコ改修（リサイクル建材、LED 照明） ⑤ その他（現代に合わせた通信設備の更新）
環境性・省エネ性を確保・維持するための改修 (断熱化や設備の高効率化・環境教育に活用)
① 断熱性の向上（壁、開口部） ② 遮音性の向上（壁、開口部） ③ 設備の高効率化（太陽光発電、LED 照明、人感センサー）

これらの改修工事等における整備の実施は、他の公共施設整備との調整や社会的要請・ニーズの変更に応じて整備時期・内容・数量などの検討を行います。

6 施設の保全に向けた考え方

① 改修等の優先順位について

改修等の優先順位の考え方

- ・原則、建物劣化度順位表における優先順位を基に実施することとしますが、児童生徒の学校生活における安全性を損なう恐れがあり、緊急性の高いものについては最優先とします。また、劣化状況の優先順位だけではなく、効率性や財政状況等を総合的に判断し、優先順位を再検討します。
- ・社会動向の変化等により、学習環境としての必要な機能を確保できていないものについては、機能向上のための整備についても検討します。
- ・整備にあたっては、原則学校単位での実施を行います。

建物劣化度順位表

										2020													
建物基本情報										構造躯体の健全性			劣化状況評価							優先順位			
通し番号	施設名	建物名	用途区分		構造	階数	建築年度		築年数	耐震安全性			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	劣化度 (100点満点)					
			学校種別	建物用途			西暦	和暦		基準	診断	補強											
13	尾鷲中学校	体育館	中学校	体育館	R	2	1969	S44	51	旧	済	-	C	C	D	C	C	71	1				
10	向井小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	1980	S55	40	旧	済	-	C	B	C	C	C	50	2				
12	尾鷲中学校	校舎	中学校	校舎	R	3	1967	S42	53	旧	済	済	B	B	C	C	C	47	3				
9	向井小学校	校舎	小学校	校舎	R	1	1980	S55	40	旧	済	済	B	C	B	C	C	44	4				
14	尾鷲中学校	校舎	中学校	校舎	R	3	1989	H元	31	新	-	-	C	C	B	B	C	42	5				
15	尾鷲中学校	校舎	中学校	校舎	S	2	1989	H元	31	新	-	-	B	C	B	B	C	39	6				
17	輪内中学校	体育館	中学校	体育館	R	1	1965	S40	55	旧	済	-	C	B	B	C	C	37	7				
7	矢浜小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	1981	S56	39	旧	済	-	C	B	B	B	B	28	8				
11	賀田小学校	校舎	小学校	校舎	R	3	1972	S47	48	旧	済	-	B	B	B	C	B	30	9				
8	矢浜小学校	校舎	小学校	校舎	R	3	1986	S61	34	新	-	-	B	B	B	B	B	25	10				
3	尾鷲小学校	体育館	小学校	体育館	W	2	1999	H11	21	新	-	-	B	B	B	B	B	25	11				
2	尾鷲小学校	校舎	小学校	校舎	R	3	1976	S51	44	旧	済	済	B	A	A	A	A	2	12				
1	尾鷲小学校	校舎	小学校	校舎	R	3	1975	S50	45	旧	済	済	A	A	A	A	A	0	13				
4	尾鷲小学校	校舎	小学校	校舎	S	2	2012	H24	8	新	-	-	A	A	A	A	A	0	14				
16	尾鷲中学校	武道場	中学校	体育館	W	1	2012	H24	8	新	-	-	A	A	A	A	A	0	15				
18	輪内中学校	校舎	中学校	校舎	R	2	2013	H25	7	新	-	-	A	A	A	A	A	0	16				
5	宮之上小学校	校舎	小学校	校舎	S	2	2014	H26	6	新	-	-	A	A	A	A	A	0	17				
6	宮之上小学校	体育館	小学校	体育館	S	1	2014	H26	6	新	-	-	A	A	A	A	A	0	18				

※建物情報一覧 健全度を劣化度（100－健全度）に置き換える

プール改修優先順位表

プール基本情報								劣化状況評価		
施設名	用途区分		構造	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	プール 塗装	プール サイド	ろ過器
	学校種別	用途			西暦	和暦				
尾鷲小学校	小学校	プール	コンクリート	348	1963	S38	56	C	B	C
尾鷲中学校	中学校	プール	コンクリート	500	1971	S46	48	C	B	B
宮之上小学校	小学校	プール	コンクリート	300	1977	S52	42	A	C	C
輪内中学校	中学校	プール	コンクリート	435	1973	S48	46	B	C	B
矢浜小学校	小学校	プール	ステンレス	372	2002	H14	17	B	B	B
向井小学校	小学校	プール	アルミニウム	240	1984	S59	35	B	B	B
賀田小学校	小学校	プール	ステンレス	257	1999	H11	20	B	B	B

※国が要求する計画の策定基準においては、建築物を対象としているため、評価の方法については、解説書の評価方法を参考にし、目視及び経過年による評価を実施し、左記のとおり優先順位を設定しました。

② 保全計画の効果と今後の見通し

保全計画による効果

施設の劣化度を把握することにより、不具合が発生してから改修等を行う事後保全から、予防保全による維持管理を行うことで、故障や不具合の発生による教育環境の悪化や機能不全を起こす危険度が低減されるとともに、機能や性能を良好な状態で保つことにより、児童・生徒の安全・安心を確保することができます。

また、建物の耐久性を一定水準確保することにより、建物自体の長寿命化を図り、さらに予算の縮減を図ることができます。

今後5年間の計画

今後5年間の施設整備については、劣化度が高い機械設備・電気設備のうち、老朽化している小中学校のトイレの洋式化や蛍光灯、水銀灯等の照明設備のLED化、避難所機能の強化を図っていきます。

また、劣化状況調査において、劣化度が高い屋根や屋上、外壁、内部仕上げの改修等を短期間で行うには、限られた予算の中では非常に困難な状況であるため、国庫補助等を最大限に活用し、過度な財政負担とならないよう中長期的な期間で推進していきます。

直近5か年の整備計画

事業名 年 度	長寿命化改修	トイレ整備	バリアフリー化	体育館LED化	部位修繕	その他整備事業
2021 令和3年 ↑ 2025 令和7年 ↓	尾鷲中学校 (体育館)	尾鷲中 尾鷲小 矢浜小 向井小 輪内中	尾鷲中	尾鷲小 宮之上小 矢浜小 向井小 賀田小 尾鷲中 輪内中	尾鷲中 (消火栓)	尾鷲小 (遊具) 矢浜小 (遊具) 賀田小 (遊具) 尾鷲小・中 (給食集約化) 矢浜小・向井小 (給食室統廃合)

大規模な事業については、前年度以前に実施設計を実施します。

7 学校施設保全計画の継続的運用方針

① 情報基盤の整備と活用

学校施設における過去の改修等の履歴や定期点検・劣化状況調査の結果を基にした情報を学校施設の基本情報である「公立学校施設台帳」と併せてデータベース化し、蓄積していくことで、学校施設の現状を把握します。

② 推進体制等の整備

本計画に沿った運用を行うためには、教育委員会だけではなく、学校や建設部門との連携による定期検査・劣化状況調査等や企画財政部門との連携を図りながら、施設整備に係る実施年度・事業費の設定などを行っていきます。

③ フォローアップ

データベース化した学校施設情報を活用して、優先順位を設定することで、計画的な施設整備を行っていきます。また、不具合箇所の早期把握に努め、的確な整備対応を図っていくものとします。

本計画の進捗状況等については、適切な時期に、PDCAサイクルによる検証を行いながら、必要に応じて本計画の見直しを行っていきます。

尾 鷲 市 学 校 施 設 保 全 計 画

改 訂	令和 4 年 3 月
	尾鷲市教育委員会
住 所	三重県尾鷲市中村町 10 番 50 号
電 話	0597-23-8291
F A X	0597-23-8294